

ツクシ、ノビルが芽生えた！

オタマジャクシ動き出す、ヤマアカガエル卵塊40に

★★★先週の観察メモ＝3月20日、晴れ★★★



ツクシ、ノビルが道具入れ近くに：作業前、大屋さんが気づいた＝写真左右。ツクシ田んぼのすぐ北側の草地で、毎年、この場所に芽吹く。その縁で、ツクシを田んぼの名前に借用した。



田んぼ周辺では、オオイヌノフグリ(青)、タネツケバナ(白)、タガラシ(黄)、ノミノツヅリ(白)、トキワハゼ(白)がそれぞれ、可憐な花を咲かせ、春本番を謳歌している。

オタマジャクシが動き出す：ヤマアカガエルのオタマジャクシが元気に動き始めた＝写真左下。かまくら緑の探偵団の活動日にあたった20日、大橋、小坂さんの案内で、尾根筋のヤマザクラを見たあと、ヤマユリ田んぼに来て、親子で田んぼの中をのぞいていた。



ヤマアカガエルの卵塊が40に：20日に植村さんがサクラ田んぼで1塊を発見、田

んぼ下の耕作放棄田に移した。さらに22日、ヤマユリ田んぼの給水口近くに、新たに1塊＝写真右。

まだ新しく、前日未明の雨のとき、産んだらしい。これで通算40塊。08年の35塊を大きく上回る。



★★★先週の観察メモ＝3月27日、晴れ★★★

起こしてごめん、ヤマアカガエル：3段目掘り中の新田んぼの東北角にひょっこり、ヤマアカガエルが現れた。胴長5センチほど。ひどくスリムで、産後らしい。

「まだ寒いや、もう、ひと眠り」とばかり、泥の布団に、もぐりこんでいたのだろうか。そのカエルを、たたき起してしまったわけだ。



レンゲ、ノミノフスマ……野の花が花盛り



★★★先週の観察メモ＝4月6日、快晴★★★

久しぶりに春の陽光が輝いた6日（火）午後、各田んぼの畦に野の花が一斉に咲き誇った。レンゲはレンゲ田んぼの畦のほか、サクラ、ツクシ田んぼの間の畦にも＝写真左。毎秋、種子を蒔いているのに、その割には花が少ない。



スミレ田んぼの畦で、ひととき鮮やかなのが

ノミノフスマ＝写真右。3ミリほどの花だが、アイボリーがかった白が目を奪う。



フスマは「衾」と書く。夜具のことだが、名前と違う洗練された美しさだ。花弁は5枚だが、2つに深く切りこんでいるので、10枚に見える。

青いオオイヌノフグリも無粋な命名だが、春一番に咲く可憐な花だ＝写真右。紫がかった青のカキドオシは、茎が蔓（つる）になり、垣根をくぐりぬけて伸びるところから命名された＝写真上。近年、この緑



地が増殖している。葉はシソのように、丸くぎざぎざしている。黄色いタガラシは、味が辛いので、その名がある。ただし、有毒だから、だれも食べない。花はやはり有毒のキツネノボタンに似ているが、葉が厚ぼったくて艶があり、毛がないので見分ける＝写真左。



ヤマアカガエルがもう1卵塊

★★★先週の観察メモ＝4月10日、晴れ★★★

レンゲ田んぼの中央付近までうない進んだとき、「あ、オタマジャクシ」「こっちにも」と声が上がった。ヤマアカガエルが産卵していたのだ。ヤマユリ田んぼなどと合わせ、41塊になる。

野村さんが小型の柄付きの網で掬い、バケツに入れた＝写真右。その数、300匹をはるかに上回った。田んぼ下の耕作放棄田に設けた臨時のカエル池に放した。その後もレンゲ田んぼに、オタマジャクシが……。東側水路に堰を設けて、ひたひたまで給水した。



カルガモがアオミドロをぱくぱく

レンゲ田んぼの田うないをしているとき、南隣りのスマレ田んぼでカルガモのペアが餌を漁っていた。近づいて見ると、水溜りに早くも発生したアオミドロを、2羽ともすすりこんでいた＝写真左。

アオミドロは去年の田植えのあと、大量に繁殖し、網で掬って除くのに何日もかかった。そのアオミドロを、カルガモが食べてくれば、大助かりだ。

カルガモがオタマジャクシを食べるからといって、追い立てる人がいる。たしかに、オタマジャクシを食べるし、ドジョウも食べているだろう。夏、稲の根元に、ホタルが餌にするサカマキガイが繁殖するが、それも食べているようだ。半面、田んぼには邪魔なアメリカザリガニも食べていることだろう。そして、アオミドロも。

野生動植物の生態を、たまたま目についた姿だけで判断するのではなく、種々の要素を総合しつつ、科学的に考察する習慣を持ちたい。



コオニタビラコ、和種タンポポも満開

先週のこの欄で、野の花が田んぼ周辺で咲き誇っている様子を紹介したが、春の七草の一つで、ホトケノザとも呼ばれるコオニタビラコも、スマレ田の畦で上品な花を咲かせている＝写真右。



かつては鎌倉のどこでも咲いていたが、いまはめったに見られない。広町緑地でも、田んぼを復元した結果、群生する姿が復活した。

一方、和種のタンポポが入り口広場一面を彩っている＝写真左。アスファルトの割れ目からも芽を出す生命力の強い植物だが、同じキク科で茎の長い外来種のセイヨウタンポポに気おされ、茎の短い和種は鎌倉でも少なくなった。広町緑地ではさいわい健在だ。



ハハコグサ、ムラサキサギゴケも畦に咲く

★★★先週の観察メモ＝4月17日、薄曇り★★★

ハハコグサ(母子草)：茎や葉に白い細毛が生えていて、黄色い花が白っぽく見える。春の七草の一つで、御形(ごぎょう)とも呼ばれる。昔は草餅に入れたそう。

ムラサキサギゴケ：春の花の中では遅く、田植えが近づくころ咲く。花の形が鳥のサギ(鷺)に似ているので、この名がついた。湿地を好む多年草だが、田んぼ周辺では少なく、ことしは写真の1株しか見当たらない。増殖を期待したい。



地を好む多年草だが、田んぼ周辺では少なく、ことしは写真の1株しか見当たらない。増殖を期待したい。